史に書き残したかったと、思うままに書いて見ました。

（後略）

（付）この祖母さんから伝へ聞いていることは大変価値あることで、シーズンを迎えている高山・元猿海岸の、宝永四年（約三七〇年前）又は安政元年（約百二十年前）の大地震によるものです。海岸に立てば背平山崩壊の姿よくわかります。郷史に書き残らしたことは本当に惜しいことでした。（羽）

## 覚書

### 思い出のわらべ唄

会員　平川マサ

先般の物故会員慰霊祭の折りには、大変お世話様になりました。厚くお礼申上げます。

昨日佐伯史談第一二三号を受取り、夕方でしたがついく読み入ふけり、夕食の時間が一時間もおそくなりました。

「一台殿　台殿」の唄は、私達も子どもの頃は、火鉢をかこんでよく遊んだものでした。それがどういう意味かちっとも知らず、ただ口覚えに覚えておりましたので、「源八そこ退け」のところを「そこ女け」と唄っておりまして苦笑しております。今、矢田様の文章を読みまして、はじめて意味がわかりました。私達は郷土のことは勿論、いろいろなことを、子から孫へと伝えて行く責任があると思います。

私は、佐伯市教育委員会の乳幼児学級のお手伝いをやっておりますが、三才児の子ども達と、二時間余りを遊ぶ時、昔私達が遊んだ佐伯の遊びや、唄を取り入れておりますが、勉強する母親達が、大部分はよそから入って来られた方が多いのでどうかと思いますが、佐伯に居た頃こんな唄を唄ったよ、と思い出してくれる子どもが居たら幸いです。

「いちく　たいちく」の唄は、まだ他の人達からも投稿があると思いますので、まちがいのところは訂正して下さい。

いちく　たいちく　たいのまいの　おちよこは
いくたいな　はしのそとのしようぶは　だれがうえた
たしようぶじや　いったいどの　たいどの　たいが
うえたしようぶじや　げんぱち　そこのけ
たろうざえもんよ

ついでに、佐伯の「かごめ　かごめ」を紹介します。よその人が入り込んだのと、マスコミの発達で、かごめかごめも今では変ってしまいましたが……。

かごめ　かごめ　かごの中のとりは　いつでてあそぶ　よあけのそらに　朝日のひかり　かがやくときは　うしろはだれ

ここで鬼は後の人をつかまえて、その子から一人づつ四拍子で順に指さして唄います。

ひとんこ　ふたんこ　さんめのこ　よって　なかの
くそつかみ　だれが　あとを　そろえるか

この「ひとさんが　そろえるよ」

この「そろえるよ」の「よ」で次の鬼がきまります。この「ひとんこ　ふたんこ」の唄はわっくり唄いますので、何かしら情緒があり、夕やけの空を見ながら唄いたい唄です。こんなに美しい唄だのに、どうして「くそつかみ」なんていうことばがあるのか、不思議でなりません。

（後略）

失われゆくふるさとのもの、何とか後に残したいものです。こうして「佐伯史談」にとり上げてのせますと、郷土の歴史や文化を大事に思っている人達、五百余の会員の書架に、いつまでも残ります。（編集子）